

ココクリーン

《 本格的な 環境対策 専門洗浄剤 》

ボンド商事株式会社

(H25-11-11)

《 ココクリーンには、用途に応じた「4種類の製品」があります 》

ウルティモ	⇒	揮発性有機溶剤に替わる洗浄剤 (VOC)	→ 脱脂、溶解、剥離にも広く使用
UEC-1	⇒	ウレタン & エポキシのプライマー、軟化剤	→ 前処理、反応調整 (注意：硬化を終了したウレタンやエポキシには対応出来ません)
ギガリキッド	⇒	有機質な汚れ（オコゲ）洗浄剤	→ 苛性ソーダを100℃で炊いても落ちないオコゲを落とす強力さ
シブリュート	⇒	電子・半導体・精密機械 専用洗浄剤	→ 非極性液（ノンパラメント）

ココクリーン・シリーズに共通する特長

- 1 環境にやさしい、人の健康にやさしい を前提にした商品群
 - 揮発性が少ない
 - オゾン層や地球環境（河川・海・湖沼）への影響が少ない →（安全性は下水に流せる範囲）
 - 激臭・異臭がない → 作業環境の改善に最適（どちらかというとフルーティーな香り）
 - 安全性が高く 取扱いやすい
- 2 全ての製品がアルコール希釈か100倍以上の水で希釈して下水に放流可能
- 3 繰り返し使用ができ、汚れが再付着しない（再付着防止）
- 4 P R T Rを含め主要法令に抵触しない（消防法の引火性 4-2）

以上

ココクリーン「ウルティモ」概要

ボンド商事株式会社

《環境と性能重視の商品》

(改訂 14-1-5)

概 要	性 状	リキッド（液体）（沸点：95℃以上、揮発性：なし）
	主要原料	ピロリドン系芳香族化合物（由来：ナフサ）、シトラス系炭化水素（由来：ナフサ） グリコール系エーテルソルベント（由来：ナフサ）界面活性剤（高級アルコール系ノニオン） （由来：ナフサ）
	使用対象	1）揮発性有機溶剤代替品 2）洗浄剤 他
	対象内訳	①溶解 ②分解 ③剥離 ④洗浄 ⑤脱脂、⑥希釈 ⑦代替（揮発性有機物対象）

特 長	環 境	1 人と環境にやさしい設計 →PRTR、GHS その他主要法令の適用を受けない
		2 大気（オゾン層破壊）、地球環境（河川・海）破壊が少ない
	安 全 性	3 原料に劇毒物の適用を受けない
		4 二次汚染がない（空中や水中で他の化学物質と反応しない）たとえば ①アセトンは空中で反応してアセトアルデヒドやホルマリンになる可能性あり ②メチレンクロライドは界面活性剤で溶かして流しても河川でトリハロメタン に化学変化する 本品にこのような恐れはない
	そ の 他	5 溶解力が強い（アセトンよりも強力なメチレンクロライドよりも総合力で上回る）
		6 異臭が少ない（本品は比較的フルーティーな香り = 狭い作業場での必須条件）
		7 剥離力が強い（フッ素系樹脂焼き付け塗装を剥離）
		8 繰り返し使用にも相互の汚れの「再付着防止」つき

使 用 方 法	1 上記「概要」にある「対象内訳」に応じて使用する ①漬け置き、②スプレー、③含浸、④乾燥を求める場合はアルコール混合する方法あり
	2 原則「液が疲れるまで」使用可能 → 液が疲れた場合は継ぎ足しする（経済性） ※使用方法により繰り返し使用不可の物もある（例・ソーラーパネル洗浄）
	3 廃液処理：①汚物を除去し有機酸でpH6～8（中性）にして徐々に放流する ②アルコール（エタノール、プロパノール）で希釈して徐々に放流 ③100倍以上の水に薄めて河川に徐々に放流。（使用原液にして1トン以上の放流は地方自治体に届ける）

注 意	1 耐油性手袋、シリコン手袋着用（手についた場合はよく水洗いをする）
	2 酸性原料、酸化剤と併用しない（冷暗所保管）
	3 本剤は万一の火災の場合も「水」で消火できる / 引火性：消防法4-2
	4 作業は換気（通気）のよい場所で行う

注意：安全データシート（MSDS）参照。

(12-07-18)